

## 東通原子力発電所1号機 第2回定期検査の概要

### 1. 定期検査の期間

平成20年3月22日(土)～平成20年8月13日(水) 145日間

(発電停止期間：平成20年3月22日～平成20年7月18日 119日間)

### 2. 主要な点検ならびに作業の結果

#### (1) 燃料集合体の取替え

燃料集合体(764体)のうち、128体を新燃料に取替えました。

#### (2) 制御棒駆動機構の点検

制御棒駆動機構(185体)のうち26体を取外し、そのうち14体について分解点検を実施してその健全性を確認しました。また、残りの12体については、予備品と取替えを実施しました。

#### (3) 出力領域モニタの取替え

出力領域モニタ(43本)のうち、性能機能維持を図るため8本について取替えを実施しました。

#### (4) 復水器細管の点検

復水器細管(28,168本)のうち、10,848本について渦流探傷検査などを行い、健全性の確認を実施しました。

なお、復水器細管全数について清掃を実施した結果、海生物付着または閉塞が確認された細管4本(復水器(A)：1本、復水器(B)：1本、復水器(C)：2本)について、予防保全の観点から施栓を行いました。

#### (5) 配管肉厚測定検査

原子炉系、タービン系配管の約1,700箇所について肉厚測定を行い、健全性を確認いたしました。

#### (6) 制御棒のひび等に関する点検

炉心に装荷されているハフニウム板型制御棒全29本について、ボロンカーバイト粉末型制御棒へ取替えを実施しました。

なお、国内BWRプラントにおいて、ハフニウム板型制御棒にひび等が確認され、原子力安全・保安院よりハフニウム板型制御棒のひびおよび破損の有無を確認するよう指示を受けていることから、取外したハフニウム板型制御棒について外観点検を実施し、異常のないことを確認しました。

### 3. 耐震裕度向上工事

更なる耐震安全性の向上に努めていくため、安全上重要な配管・電路類の支持構造物（サポート）など、約1,900箇所について自主的に耐震裕度向上工事を実施しました。

### 4. 定期検査中に発生・確認された主な事象

#### ○作業員への放射性物質の付着

作業員が、管理区域から退域する際の体表面ゲートモニタでの身体サーベイにおいて、4月4日に左手の手のひら表面にわずかな放射性物質の付着を確認したことから、直ちに付着していた放射性物質を除去しました。また、4月11日には右ひざの側面にわずかな放射性物質の付着を確認したことから、直ちに付着していた放射性物質を除去しました。

このため、管理区域退域時の手のふき取りを徹底するとともに、作業員等への放射性物質の付着防止のため、脱衣エリア等における清掃を強化することとしました。

また、放射性物質の付着の可能性のある機器の切り離し作業を行った際は、作業終了時に現場でもサーベイを行うこととしました。加えて、協力会社も含め、上記対策を徹底するとともに、放射線管理の重要性について再度周知することとしました。

（平成20年4月4日、9日、14日お知らせ済み）

以 上